News Release

2026 年 11 月 26 日

2026 年「026（おふろ）」の年、11 月 26 日「いい風呂の日」

ツムラのくすり湯「バスハーブ」

ざぶんの幸せ川柳コンテスト 応募数６万句越え！ 大賞は「湯が溢（あふ）れ いつか最後の 親子風呂」

～生活者の言葉から、入浴文化の価値を見つめ直す～

株式会社ツムラ（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：加藤照和、以下、当社）ヘルスケアカンパニーは、「ざぶんの幸せ川柳コンテスト」の受賞作品を、2026 年 11 月 26 日（木）の「いい風呂の日」に発表しました。



本コンテストでは、「お風呂に入る幸せ」をテーマに、ほっとした瞬間や家族との何気ない会話、一人でゆっくり過ごす時間など、日々の入浴にまつわるエピソードや思い出を五・七・五で募集しました。

8 月 26 日から 10 月 26 日までの 2 か月間に、15,883 件、61,411 句の応募が寄せられ、作品には、心身を整える時間や人とのつながりなど、暮らしの中にあるさまざまな「お風呂の幸せ」が表現されていました。

これらの応募作品の中から、放送作家の小山薫堂さん、作家の林真理子さん、川柳作家の尾藤川柳先生らによる審査を経て、受賞作品が決定しました。

「ざぶんの幸せ川柳コンテスト」概要

- 募集テーマ：お風呂に入る幸せ
- 募集期間：2026 年 8 月 26 日（水）～10 月 26 日（月）
- 応募方法：コンテスト特設サイトから応募
- 応募総数：15,883 件／61,411 句
- 表彰：大賞、くすり湯賞、湯道賞、審査員賞、朝日新聞社賞（計 6 作品）
- 主催／運営協力：株式会社ツムラ／朝日新聞社アカウントソリューション本部
- 結果発表サイト：https://www.asahi.com/ads/zabun-senryu2026/results/
  ※11 月 26 日 10 時公開

大賞は「湯が溢(あふ)れ いつか最後の 親子風呂」

受賞者：ママ 6 年目（30 代）

◆審査講評

子どもの成長はうれしいものですが、いつか親子で一緒にお風呂に入る時間にも終わりが訪れます。何気ない日常の中にある親子の幸せと、いつか訪れる最後の親子風呂への切なさ。その両方が「湯が溢れ」という情景とともに鮮やかに描かれています。審査員一同、深い感動を覚え、満場一致で大賞に選出いたしました。

受賞作品一覧

賞	受賞作品	受賞者
大賞	湯が溢れ いつか最後の 親子風呂	ママ 6 年目
くすり湯賞	フラれた日 少し濃いめの バスハーブ	西田　克憲
湯道賞	湯に浸かり 何もない日が 宝物	総務の番人
審査員賞 （林さん）	極楽と 言っては風呂で 生き返る	風信子
審査員賞（尾藤さん）	世界中 敵になっても 風呂がある	ごん太
朝日新聞社賞	被災者の 心を風呂が だきしめる	宮﨑　敏男

受賞作品から見えてきた、日常の中の「お風呂の幸せ」

家庭のお風呂は、一人で静かに過ごす時間にも、家族との団らんの時間にもなります。また、湯船につかり、入浴剤の香りに包まれる時間は、身体だけでなく心をいたわる「養生」のひとときでもあります。

今回寄せられた作品からは、お風呂が日々の暮らしに根づき、世代を超えてさまざまな

幸せや思い出を育んでいることが伝わってきました。生活者一人ひとりの言葉を通して、改めてあたりまえに入浴できる喜びや大切さに気づかされました。

審査員

小山薫堂さん（湯道文化振興会代表理事）

放送作家。脚本家。「料理の鉄人」など斬新なテレビ番組を数多く企画。映画「おくりびと」で第 81 回米アカデミー賞外国語部門賞を獲得。「くまモン」の生みの親でもあり、京都芸術大学副学長、2025 年大阪・関西万博のテーマ事業プロデューサーなどを務める。日常の入浴を文化として捉える「湯道」を提唱し、初代家元を務める。

◆湯道賞コメント

一日の終わりにざぶんした瞬間、何事も無かった平凡な日を『宝物』と感じる。当たり前の幸せを『宝物』という言葉に置き換え、湯への静かな感謝を表現した、湯道の精神に等しい名句です。

林真理子さん（作家）

1982 年にエッセイ集『ルンルンを買っておうちに帰ろう』でデビュー。『最終便に間に合えば』『京都まで』で直木賞を受賞するなど、数々の文学賞を受賞。小説・エッセイを通じて、現代の女性や社会、人々の暮らしを描き続けている。

◆審査員賞（林真理子選）コメント

私たちはお風呂につかって、よく「極楽～」とつぶやきますが、極楽はあの世のこと。そして「生き返った」と思うのですが、その矛盾が面白いです。

尾藤川柳先生（十六代目川柳／一般社団法人川柳文化振興会常務理事）

十六代川柳。川柳公論社主宰、女子美術大学特別招聘教授。川柳の創作・研究・普及に長年携わり、川柳文化の継承・発展に尽力。『川柳総合大事典』『川柳のたのしみ』などの編著書がある。

◆審査員賞（尾藤川柳選）コメント

「世界中敵になっても」は、ストレス多い現代社会の中で、最後の行き場に風呂をみつけました。湯に癒（い）やされるのは、日本で暮らしていてよかったなあ～、という共感の一句でしょう。

朝日新聞社

◆朝日新聞社賞コメント

地震や豪雨など自然災害が相次ぐ今、心に響いた一句です。厳しい避難生活の中、温かいお風呂に身を委ねるひとときに、ささやかな幸せと人のぬくもりを感じます。これまで多くの被災地を取材し、被災された方々の姿を伝えてきた朝日新聞社の賞にふさわしい作品として選びました。日々の暮らしや社会の今を５・７・５の言葉に映し出す川柳。人々の営みや時代の変化を見つめ、伝えてきた新聞とも通じるものがあると、寄せられた多くの句を通して改めて感じました。

株式会社ツムラ

◆くすり湯賞コメント

選定会では、小山薫堂さんから「“濃い”と“恋”がかかっていて秀逸」とのコメントがありました。言葉遊びの巧みさはもちろん、傷心の日にそっとお風呂に身を委ねる情景にも味わいがあり、審査員一同の心をつかんだ一句でした。

※バスハーブは、浴槽(約 100~200L)のお湯に 3～10mL が規定量です。規定量を守って使用してください。

尾藤川柳先生による総括コメント

川柳は人間を直接描く文芸です。お風呂のテーマは、お湯のように人情に溢れた作品を生み出しました。その光景が見えてくるような広がりある作品が多く見られ、選考していて楽しさを感じました。川柳も伝統文芸ですが、お風呂という日本文化の良さがここにあります。日々の入浴、被災地の風呂、失恋の涙と湯舟などの場面で、湯に癒（い）やされるのは、日本で暮らす人々の特権のようにも思えます。共感の大きいコンテストになりました。

魂も泡の丸さとなる湯舟　　川柳

「ざぶんの幸せ」プロジェクトとは

本プロジェクトは、入浴の情緒的・機能的価値を広く伝え、お風呂に入る習慣と日本の入浴文化を次世代へつなぐことを目的とした取り組みです。

近年、ライフスタイルの変化やタイパ（タイムパフォーマンス）志向の高まりなどを背景に、湯船につからずシャワーだけで済ませる人が増えています。また、SNS を中心に「風呂キャンセル（風呂キャン）」という言葉が広まるなど、人々とお風呂との関係にも変化が見られています。

一方、お風呂は身体を清潔にするだけでなく、湯船につかることで身体が温まり、心身のリラックスにつながるなど、健やかな暮らしを支えるさまざまな価値を持っています。

また、自分自身と向き合い、家族との会話や人とのつながりを育む時間でもあります。
　日本では古くから、入浴は身体を整える「養生」の一つとして、人々の暮らしに根付いてきました。本プロジェクトでは、入浴を心身の健やかさを支える「養生」の一つと捉え、人々の健やかな暮らしへの貢献を目指します。

ツムラのくすり湯「バスハーブ」（医薬部外品）について

　6 種の生薬の作用で、温浴効果を高め、冷え症や肩こり、腰痛、疲れを緩和する、有効成分 100%生薬エキスの薬用入浴液です。
生薬の香りと自然な草色がお湯に広がり、小さなお子様でも毎日お使いいただけます。



販売名：バスハーブ

ブランドサイト：https://www.tsumura.co.jp/brand/special/bathherb/

株式会社ツムラ　ヘルスケアカンパニーについて

　漢方製剤を中心に医薬品の製造・販売を行う株式会社ツムラのヘルスケアカンパニーは、一般用漢 方製剤、医薬部外品、食品などを取り扱い、一人ひとりのライフステージや健康状態に合わせた製商品・サービスをエビデンスを元に提供し、養生から未病・予防、治療までを支える「生涯健康サポート」を通じて、人々の well-being に貢献します。

※ヘルスケアカンパニーは、株式会社ツムラが 2026 年 4 月に導入した社内カンパニー制における事業単位であり、 独立した法人ではありません。